

ローマ人への手紙に聴く②

「使徒とされたパウロの願い」

(ローマ1:8-15)

一、私たちの感謝

8節をご覧ください。〈まず初めに、私はあなたがたすべてについて、イエス・キリストを通して私の神に感謝します。全世界でああなたがたの信仰が語り伝えられているからです。〉と、パウロは語っています。パウロは、ローマに興された教会の様子を、ある程度知っていたようです。その一つは、使徒の働き18章に出てまいります、アキラと妻プリスキラ(正式名はプリスカ)というユダヤ人夫妻の弟子たちです。二人は紀元49年の、ローマ皇帝クラウディウスが出したユダヤ人追放命令により、ローマを出てコリントにきました。その時、パウロと出会いました。当然のこと、パウロは一人より、ローマの教会の様子をかなり詳しく聞いたものと思われまます。その他にも、聖書には書かれていませんが、パウロは様々な人脈を持っていましたので、ローマの教会の様子について聞いていたものと思われまます。

二、願い通りにならなくても

9節、10節、13節をご覧ください。
 〈ローマ1:9、10、13〉パウロは、

ローマ人への手紙を出した時点で、まだローマに行ったことはありませんでした。ローマに行きたいと願いつつも、なかなかかなえられませんでした。13節で、〈私はほかの異邦人たちの間で得たように、あなたがたの間でもいくらかの実を得ようと、何度もあなたがたのところに行く計画を立てましたが、今に至るまで妨げられてきました。〉と語っているからです。ですが私は、主にあって思います。「あれをやりたい」と願い、祈っているにもかかわらず、実現できない場合に、それも神の御手の中にあることであると。すべてが神の御手の中にあり、「神のなされること」は、すべて時にならなくて美しい(伝道3:11)という確信があるからです。

三、教会を強める御霊の賜物

11節、12節を見てまいります。〈私がああなたがたに会いたいと切に望むのは、御霊の賜物をいくらかでも分け与えて、あなたがたを強くしたいからです。〉というより、あなたがたの間において、あなたがたと私の互いの信仰によって、ともに励ましを受けたいのです。とあります。使徒とされたパウロは、ローマに起こされた教会に行き、御霊の賜物を分け与えたい、と語りました。それはどういう意味なのでしょう。私共がキリストと出会い、その奥深さに導かれるのは、神の恵みであり聖

霊の働きですから、「主イエス・キリストと出会いました。主がここにおられます」と口からほとぼり出ることを御霊の賜物と受け止めたいかがでしょうか。そして〈御霊の賜物〉は、使徒パウロからローマの教会のメンバーに一方的に分け与えられるのではなく、実は使徒パウロもローマの教会員から受ける性質のものなのです。12節が語っているのはそういうことであると思われまます。〈というより、あなたがたの間において、あなたがたと私の互いの信仰によって、ともに励ましを受けたのです。〉と。

四、「負い目のある者です」

14節、15節を見てまいります。〈私は、ギリシア人にも未開の人にも、知識のある人にも知識のない人にも、負い目のある者です。ですから私としては、ローマにいるあなたがたにも、ぜひ福音を伝えたいのです。〉とあります。〈負い目のある者〉とは、「負債者」「(返さねばならない)義務を負っている人」の意味です。ローマ社会の人々は世界を、ギリシア人と未開の人、知識のある人と知識のない人に分けて捉えています。ですからパウロは、「私は、すべての人に対して、返さねばならない義務を負っています」と語ったわけです。ここに、神の働き、聖霊の働きを見まます。私共は生きていく限り、様々な方に

合います。その際、聖霊は私共の心にささやくわけです。「あなたは、あなたの前に立っている人に対して、返さねばならない義務を負っています」と。これは理屈ではありません。聖霊の働きです。それが、福音を伝える動機になります。なお、15節の〈ですから私としては、ローマにいるあなたがたにも、ぜひ福音を伝えたいのです〉ですが、「福音を伝える」とは、伝道において何を伝えるかを学ぶことでしょうか。それも必要ですが、私共が「あれを伝えた。これを伝えた」として、「あの人が福音を伝えた」と言えるのでしょうか。この件について、パウロが語ったことばが参考になると思います。〈コリント2:13 それについて語るのに、私たちは人間の知恵によって教えられたことばではなく、御霊に教えられたことばを用います。その御霊のことばによって御霊のことを説明するのです。〉と。私共が御霊に導かれ、御霊に教えられたことばを用いるしか、福音を伝える方法はありません。むしろかしく感じられたら、次のように受け止められたらいかでしょうか。私共が、主イエスの恵みによって生かされていることによって、福音は伝わりまます。私共は、失敗することもありますし、思い悩むことも多々あります。ですが、そういうものも含めて、主イエスによって生かされていることです。そこから福音が伝わりまます。